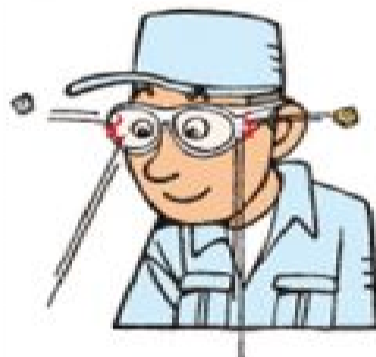


1. 8月全国行事
 - 1)夏の省エネ総点検の日 8月1日
 - 2)電気使用安全月間 8月1日～8月31日
 - 3)防災週間 8月30日～9月5日
2. 安全・衛生・防災の心得 : 暑い時期の保護具の管理と使用
3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)
4. 事故・災害事例から : 急な雨で分電盤のスイッチを操作中感電
5. ヒヤリハット事例 : フォークリフト 転倒

2. 安全・衛生・防災の心得 : 暑い時期の保護具の管理と使用 ~暑くても、正しい保護具を正しく使用~
気温が高く、汗を多くかく夏の時期は、服装の乱れや保護具の着用がおろそかになったり、保護具そのものの機能が低下したりします。
一方、人の側は暑さで注意力が低下したり、汗ばんだ手や体で電気に触れて、感電などの災害の危険が高まります。
保護具を着用していても、きちんと正しく装着していないと、保護具の役割が発揮されません。また作業服も、きちんと着用していないと機械の回転部分にはさまれたり、引っかかってケガなどの恐れがあります。
作業を始める前には作業に必要な保護具をきちんと装着しているか、服装に乱れはないか次の事項について自他共にチェックしましょう。
 - ①防塵マスク、防毒マスクは作業に合ったものをきちんと装着しているか。
 - ②保護帽はまっすぐにかぶり、あご紐を締めているか。ヘッドバンドが頭に密着しているか。
 - ③電気を取扱う作業では、肌を露出していないか。絶縁用保護具を装着しているか。
 - ④刺激性の化学物質や高温物質等を取扱作業では、保護メガネや長靴、不浸透性の保護衣等を装着しているか。
 - ⑤靴の紐を結んでいるか。靴のかかとを踏まずにきちんと履いているか。
 - ⑥作業服は正しく着用し、上着、袖口、襟元のボタンはかけているか、など。



3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

①仙台工場

発生した蒸気を全体換気だけでは排出出来ないため、新たに吸気設備を設け屋外に排出していた



4. 事故・災害事例から : 急な雨で分電盤のスイッチを操作中感電 ～分電盤がぬれて絶縁不良～
他社災害事例

(1) 災害のあらまし

屋外の修理作業場でアーク溶接作業中の作業員が、急に雨が降ってきたために溶接作業を中止、急いで分電盤のスイッチを切った際に充電部分に触れて感電。体の自由を失ったところを、悲鳴を聞いた同僚が被災者を感電部分から突き放したため助かりました。

(2) 災害の主な原因

- ①スイッチボックスの扉が解放された状態で、内部がぬれていたこと。
- ②スイッチの一部が破損していたこと。
- ③被災者の手や体、分電盤が雨でぬれており、電流が体を流れやすかったこと。
- ④分電盤のアースが適切に設置されたいなかったこと。
- ⑤分電盤のスイッチ等の安全点検や整備が行われていなかったこと、など。

(3) 同種災害の防止対策 例

- ①屋外で電気機器や電気工具等を使用する時は降雨に配慮した作業計画や養生、作業方法を検討して実施する。
- ②電気設備や電気器具類等は定期的並びに作業前にも点検・整備を行う。
- ③スイッチ等を操作する場合は、危険を予知し指さし呼称を行いながら操作する。
- ④夏期は特に感電事故が多いので、感電防止及び感電した際の処理など、この事例を教訓に教育・訓練を実施する、など。

(4) 環境安全部から

- ①労働災害: 全産業の死亡率が1%に対し、感電災害の死亡率が16%と感電災害は死亡災害に至る比率が極めて高い。
- ②「暑さから絶縁保護具等の使用を怠りがち」「軽装によって直接皮膚を露出することが多い」「発汗によって皮膚自身や衣類の電気抵抗が減少する」等に要因により感電災害が6月から9月に集中します。



濡れた手で電気器具を使わない



5. ヒヤリハット事例

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

事例	転倒
どこで	第5工場
あらまし	フォークリフトで製品を運搬しようとしている時に製品の重量が2トン近くありフォークリフトの爪を奥まで挿入しておらずフォークリフトが持ち上がってしまい転倒すのではと思いヒヤリした
原因	フォークリフトの爪が奥まで挿入していなかった
教訓・対策	荷の重さを確認して、フォークリフトの爪を奥まで挿入すること